



2025 年 8 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社インターネットインフィニティー
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 別 宮 圭 一
(コード番号：6545 東証グロース)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 星 野 健 治
(TEL. 03-6897-4777)

2026 年 3 月期第 1 四半期決算において想定されるご質問への回答について

日頃より、当社にご関心をお寄せいただき誠にありがとうございます。2026 年 3 月期第 1 四半期決算において想定されるご質問とその回答について、下記の通り開示させていただきます。

記

Q 1 第 1 四半期の進捗率と通期業績予想の達成に対する評価は？

第 1 四半期において前年同四半期で営業利益が減少していること、及び通期見通しに対して進捗が芳しくないことに関する主要因は、正光技建における構造改革の遅れ（アクティブライフ）、セントワークスの取得に伴う PMI 費用（システムソリューション及び調整額）、株主優待開始に伴う株主関連費用などの一時費用の発生によるものです。

レコードブック事業では稼働率が継続的に上昇していること、DXソリューション事業に関しても従前どおり下期偏重であること、第 1 四半期発生の一時的費用が第 2 四半期以降発生しなくなることから、第 2 四半期以降、利益が増加していくことを計画しており、結果として通期業績予想も達成可能と判断しております。

Q 2 レコードブックは稼働率が改善しているはずだが、レコードブック直営店が前年同四半期比で売上が横ばいである要因は？

FC への譲渡等により前年同四半期と比べて 1 店舗減少しており、その分の売上が減少しています。一方で、既存店舗全体の稼働率が改善しており売上が増加しているため、結果として前年同四半期比で売上は横ばいとなっています。

Q 3 レコードブックの FC 売上が前年同四半期と横ばいである理由及び前期下期よりも減少している理由、レコードブック FC の利益が前年同四半期と横ばいになっている理由は？

① FC 売上が前年同四半期と横ばいである理由

前期において、複数の FC 加盟店がプラン変更をおこなっております。

その結果、前期は B プランとして売上・原価が同額で両建て計上されていたものが、当期は A プランに変更していることにより、売上・原価ともに計上されなくなっております。

一方で、前期より FC 店舗全体の稼働率は改善しており、売上は増加しております。

結果として、前年同四半期比で売上は横ばいとなっております。

② F C売上が前期下期より減少している理由

①に記載のとおり、プラン変更による影響と、新規開業店舗数の減少によるものです。

③ F Cの利益が前年同四半期と横ばいである理由

①に記載のとおり、プラン変更により売上・費用が同額減少している（利益に影響なし）一方、F C店舗全体の稼働率改善により売上及び利益が増加しています。結果として、売上は横ばいですが、利益は増加しています。

一方で、各種取り組みによる費用計上が、前期は第2四半期に偏重していたものが、当期は平準化されているため、前年同四半期と比較すると利益が横ばいとなっています。

Q 4 アクティブライフ事業について、売上利益ともに前年同四半期比で減少している理由及び

2026年3月期の見込みは？

住宅リフォーム事業を運営する正光技建において、構造改革を実施中です。

フルケアやレコードブックとの事業連携に集中すべく、正光技建で不採算部門である外装工事等の事業を縮小した結果、売上及び費用ともに減少しておりますが、売上減少に対して費用削減の遅れが生じております。第2四半期以降は、第1四半期の売上水準は維持しつつ、費用削減効果が出てまいりますので、2026年3月末に向かって徐々に利益の改善が見込まれる予定です。

しかしながら、第1四半期の遅れを通期で取り返すことは難しいため、2026年3月期通期の利益予想は未達成の見込みです。

Q 5 DXソリューション事業の利益内訳と2026年3月期の見込みは？

DXソリューション事業のうち、特に従来から行っているシルバーマーケティング及び仕事と介護の両立支援の売上が好調であり、利益も伸びております。

一方で、システムソリューション（セントワークス）に関しては、旧グループからの業務引継ぎ等に係る一時費用が発生しているほか、のれんの償却費が影響し、DXソリューション事業において利益貢献はできていません。

ただし、上記については概ね当初計画通りであり、2026年3月期通期業績予想は達成見込みです。

Q 6 セグメントの調整額（本社費）が前年同四半期で増えている理由及び2026年3月期の見込みは？

セントワークスの株式取得に関連する費用や、株主優待を開始したことに伴う株主関連費用が一時費用として本社費に第1四半期に計上されています。

これらは前期では発生していない費用であり、かつ当期の第2四半期以降は発生しないものであります。

これらの一時費用を含めても、その他費用削減により、第1四半期における費用の進捗率は約25%にとどまっており、一時費用を除いた水準が第2四半期以降は継続する見込みです。

したがって、2026年3月期通期としては、想定していた費用の発生を下回る（利益が改善する）見込みです。

【免責事項】

本資料は、株式会社インターネットインフィニティー（以下「当社」といいます）の企業情報等の提供のために作成しております。国内外を問わず、当社の発行する株式その他有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。本資料には、当社の計画や戦略、業績の見通し等、将来の見通しに関する記述が含まれています。資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた判断・予想に基づくものですが、リスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定及び考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、事業環境、経済情勢の悪化、法令その他の関連する規制の動向、訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、外部の情報源から得られた統計その他の情報に基づいており、それらの情報について当社は独自に検証を行っておらず、その正確性又は完全性を保証することはできません。

以 上